



2009年5月20日(水) 日仏会館ホール

ブルターニュ：
経済的活力と文化的アイデンティティーが結びつく地域
同時通訳あり

司会：マルク・アンペール(日仏会館フランス事務所ディレクター、
ブルトン・デュ・ジャポン名誉総裁)

アラン・イベルニョ、
(ブルターニュ地域圏議会議員)



レンヌ大学で経済学と社会学を修めた後、コンサルタントとして働く。2004年よりブルターニュ地域圏議会議員として社会的経済および連帯経済を担当し、経済発展と研究担

当委員会の委員長を務める。また、社会的経済および連帯経済に加えて、特に中小企業の世界進出の問題や革新と国際経済への協力などに関心を抱いている。1995年から2008年にかけてレンヌ都市圏共同体から選出。

ダニエル・ル・クエディク
(西ブルターニュ大学教授)



建築家(フランス政府公認ディプロム取得)、現代史博士。西ブルターニュ大学教授であり、同大学地理建築学研究所のディレクターを務める。全国大学評議会の

「空間整備と都市計画」部門の責任者、建築学教育に関する高等学術諮問委員会のメンバー。建築物や風景と国や地方の特性は密接に結びついているという学説を主張している。

17時：アラン・イベルニョ「ブルターニュ地域圏での公・民における企業経済・連帯経済のダイナミズム」

50年前にはフランスでも最も貧しい地方のひとつであったブルターニュは、半世紀を経て、肥沃な農地や農産物加工業、情報コミュニケーション技術、水上レジャー産業、自動車産業などを擁するヨーロッパでも指折りの魅力的な地域となった。ブルトン人の勤勉さ、高レベルな職業訓練、高い生活水準と美しい風土、確固たる文化的アイデンティティー、強い連帯意識と世界に向かって開かれた精神などが、この「ブルターニュの奇跡」の要因と言えるだろう。現在において、ブルターニュも世界が直面する重大な経済危機を免れることはできないだろう。しかし、自らの切り札に賭け、積極性と希望を持ってブルターニュは未来に向かって進むのである。

18時：ダニエル・ル・クエディク「建築と風景、ブルターニュのアイデンティティーの城塞」

20世紀初頭、ブルターニュはその個性を失いつつあった。近代に入り伝統は土台から切り崩され、立地条件と経済の脆弱さも相まってブルターニュの再生は不可能かに見えた。しかし反対に、ブルターニュは生まれ変わり、国際的な思潮に敏感に反応してアイデンティティー確立へと向かうことができた。その先頭に立つのは知識人や芸術家であり、建築にその注目すべき成果を見ることができる。

19時30分：レセプションパーティー

入場無料・予約制(席数には限りがあります)

申し込み：電話：03-5421-7641 ファクス：03-5421-7651 E-mail：mikasa@mfj.gr.jp